

- (1) ①運行依頼確定を早めに行う、②生産者の持ち込み締め時間の徹底、
③荷造り方法の教育・作業員の配置、④集荷の分担、⑤出勤時間の後倒し
(2) ①荷造り方法の教育・作業員の配置、②集荷の分担、③出勤時間の後倒し
(3) ①到着時間の連絡、②着側での荷受人の配置、③パレット輸送

1. 実施者の概要

- 発荷主企業: 全国農業協同組合連合会秋田県本部
秋田県内 JA 15箇所、センター3箇所
- 元請運送事業者: 全農物流(株)秋田店: 米の輸送(主な事業内容)
- 運送事業者
 - 運(1) (有)石田運輸商会: 生鮮食品、チルド・冷凍食品の輸送
 - 運(2) 羽後運輸(株): 生鮮食品、引っ越し荷物の輸送
 - 運(3) (株)秋田市場運送: 生鮮食品の輸送、市場荷受け及び荷役事業
- 着荷主企業
 - 着(1) 東京シティ青果(株): 青果物及びその加工品の受託販売・購入販売
 - 着(2) 横浜丸中青果(株)
 - 着(3)-1 (株)大田花き: 花き及びその加工品の受託販売・購入販売
 - 着(3)-2 (株)南関東花き園芸卸売市場: 取扱品目 切花/鉢物/園芸資材
- 荷種: (1)(2) 青果、(3) 花き

2. 事業概要

➤ (1) 秋田県北～築地市場

<現状の課題>

- ①運行依頼の遅れ
- ②集荷場所における生産者持ち込み締め時間の遅れによる手待ち時間の発生
- ③各集荷場所の積荷形態の違いによる荷積み時間の長さ
- ④遠い南西から北方面(事業所近辺)に集荷している

<<実証実験>>

- ①対象運行の前日14時までに確定し運送事業者へ連絡
- ②生産者持ち込み締め時間の徹底
- ③各JAの荷造り方法の教育、作業員の配置
- ④-1 JA秋田やまもとの集荷を分担
- ④-2 出勤時間の後倒し

➤ (2) 秋田県南～横浜市場

<現状の課題>

- ①園芸センター等での荷役時間の長さ(生産者からの荷受け待ち、荷造り準備待ち)
- ②集荷箇所数が多く、北西に集荷後、南下する運行で時間を要している
- ③市場混雑時の手待ち時間の長さ

<<実証実験>>

- ① 各JAの荷造り方法の教育、作業員の配置。
- ②-1 JAふるさとの集荷を分担
- ②-2 出勤時間の後倒し
- ③-1 到着時間の連絡
- ③-2 到着時間の連絡による荷受け人の配置
- ③-3 混雑曜日を避けた運行

➤ (3) 秋田県央～厚木所在の市場、大田市場

<現状の課題>

- ①荷受け先での荷受け体制が整っていない場合があり荷役に時間を要する
- ②シートパレット崩し、手積み・手降ろしのため荷役に時間を要する

<<実証実験>>

- ①-1 到着時間の連絡
- ①-2 着側での荷受人の配置
- ② パレット輸送

3. 主な課題

- (1) ・集荷箇所数が多い、各JAの積み付け(出荷準備)が統一されていない、生産者の持ち込み締切時間が守られていない等、荷積み開始から終了までの時間は2時間を超えている。
・運行依頼が遅く運行計画が立てづらい。
- (2) ・集荷箇所数が多い、各JAの積み付け(出荷準備)が統一されていない等、荷積み開始から終了までの時間は6時間弱となっている。
- (3) ・荷降ろしの際、ドライバーが1人に対応することもあり、荷降ろし時間は2時間を超えている。

4. 事業内容

- ・発荷主、運送事業者、着荷主の事前調査を実施し、その結果を踏まえ、さらに聞き取り調査や荷積み、降ろし先の市場の実態調査等を実施した。
- ・調査結果から具体的な対応策を発着荷主、運送事業者とともに検討した。

5. 結果

- (1) 拘束時間は集荷箇所と配送先の工夫により3時間程度短縮、また、荷積み開始から終了までの時間は30分程度短縮した。
- (2) 拘束時間は集配箇所数の削減により2時間程度短縮、また荷積み開始から終了までの時間は3時間以上短縮した。
- (3) 厚木所在の市場での荷受人の配置の効果が大きく、拘束時間が1時間30分程度短縮した。大田市場とのパレット輸送は事前調査時も荷降ろし時間が数十分であったため大きな効果は出なかったが、今後のパレット輸送の課題(パレットサイズ、箱の規格統一、ラップ巻きによる結露)が浮き彫りとなった。

6. (1) 発荷主企業のメリット

- ・各JA内組合員への教育により、作業効率が向上する。
- ・運送事業者の課題を各JAに共有し改善を図ることで安定した輸送力の確保につながる。

6. (2) 運送事業者のメリット

- ・取引環境の実態を発着荷主と共有し、改善に向けた一歩を踏み出す。

6. (3) 着荷主企業のメリット

- ・市場が望んでいる秋田県産の園芸品が、輸送力の確保により安定供給される。

7. 結果に結びついたポイント、できなかった要因等

- (1),(2) 発荷主企業において各JAへ今回の事業の意図が伝わっておらず、荷造り方法の教育や作業員の配置等の実証実験が行えなかった。今後は今回のパイロット事業結果等も活用し、各JAへの教育や生産者への周知により、荷積みの効率化を図る。
- (3) 運送事業者と着荷主との連携がスムーズに行えた。
・今回のパイロット事業により、発荷主、運送事業者、着荷主が相互に意見交換する場ができたことにより、トータル的な取引環境改善に寄与する。

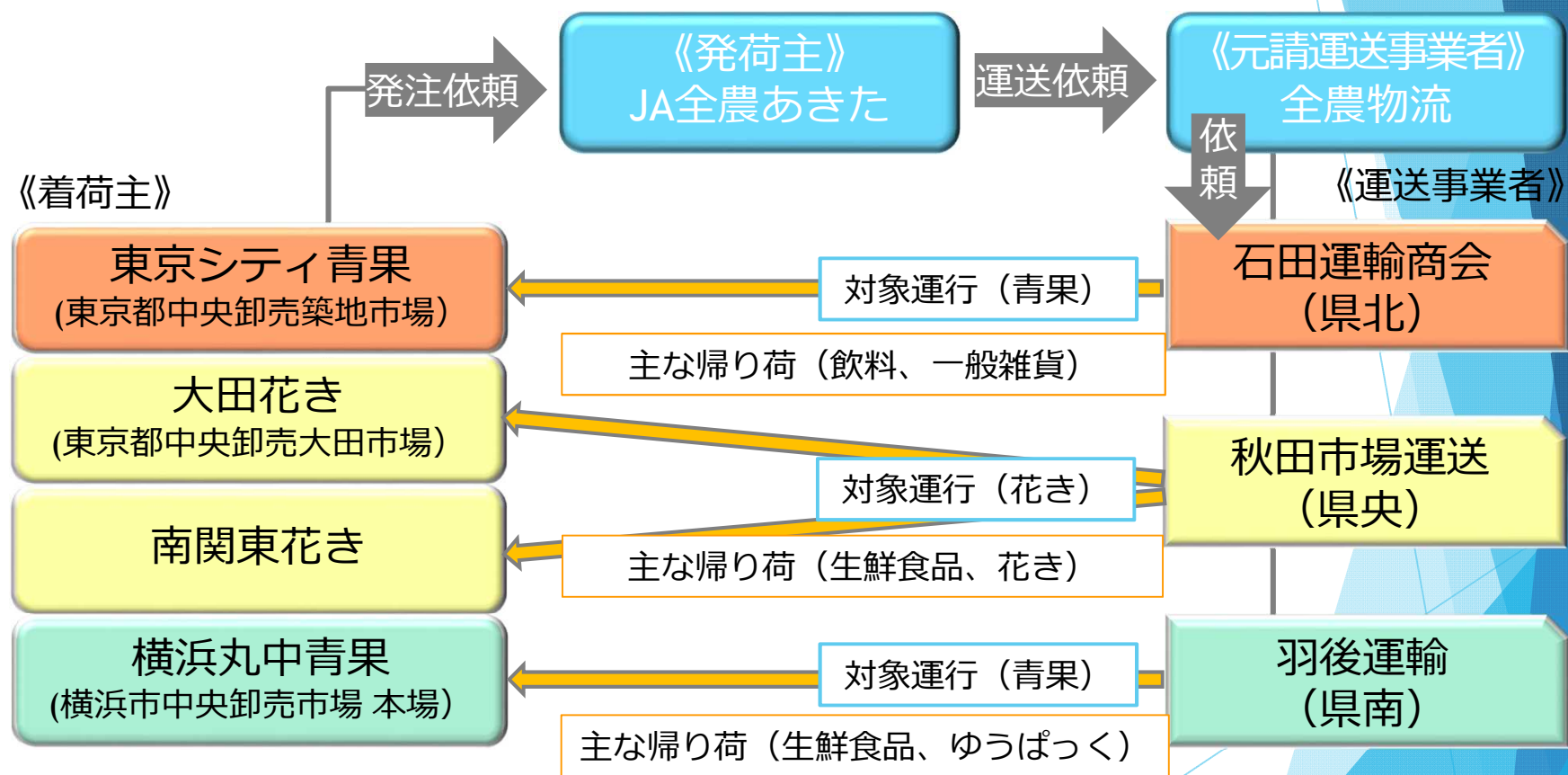
トラック運送事業の 取引環境・労働時間改善に向けた パイロット事業

1.対象集団の概要

- ▶ 対象集団は秋田県の発荷主企業1社・元請運送事業者1者、運送事業者3者、着荷主企業4社となっています。
- ▶ 主な輸送品目は、野菜、果物、花であり、繁忙期は1日10便以上のトラックが東京方面への運行を行っており、青果品についてはパレット積み・降ろしで対応しています。

区分	名称	所在地	備考
発荷主	全国農業協同組合連合会 秋田県本部 (以下「JA全農あきた」)	秋田県秋田市	職員数：280名
元請運送事業者	全農物流(株) 秋田支店 (以下「全農物流」)	秋田県秋田市	職員数：137名
運送事業者 (備考：保有車両、 ドライバー数、平 均年齢)	(株)秋田市場運送 (以下「秋田市場運送」)	秋田県秋田市	28台、35名、49.7歳
	(有)石田運輸商会 (以下「石田運輸商会」)	秋田県大館市	43台、44名、47.5歳
	羽後運輸(株) (以下「羽後運輸」)	秋田県湯沢市	33台、30名、48.4歳
着荷主	(株)大田花き (以下「大田花き」)	東京都大田区	従業員：193名
	東京シティ青果(株) (以下「東京シティ青果」)	東京都中央区	従業員：258名
	(株)南関東花き園芸卸売市場 (以下「南関東花き」)	神奈川県厚木市	従業員：46名
	横浜丸中青果(株) (以下「横浜丸中青果」)	神奈川県横浜市	従業員：252名
選定理由等	実態調査結果を踏まえ、本県の主要産業である農産物の輸送に係る集団を対象とすることが適当であると判断したため。		
事務局	秋田労働局労働基準部監督課、秋田運輸支局輸送・監査部門、(公社)秋田県トラック協会		

- ▶ 対象集団の構成は次のようになっており、本パイロット事業においては、運送事業者に対する行き便の着荷主を選定し、対象着荷主への運行におけるドライバーの労働環境の改善を行いました。



- ▶ 行きの便で労働時間が長くなる傾向のため、それぞれの運送事業者ともに、帰り荷では荷役時間の少ないものを配送することで2日目、3日目の運行を工夫していることがうかがえました。

▶ 対象集団の1運行の例（事前調査）

▶ 秋田県北～東京方面

時	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	労働時間
事前 H29.7 1日目										運	J A 荷積	J A 荷積	J A 荷積	休憩	運		休憩	運		運			荷降	運	拘束：16.5時間 運転：10.2時間 荷積：2.0時間 荷降：2.3時間
事前 H29.7 2日目	荷降	運										荷積		運		運			運			運	休憩	運	拘束：14.5時間 運転：11.0時間 荷積：1.5時間 荷降：1.0時間
事前 H29.7 3日目	運	荷降																							拘束：3.5時間 運転：1.8時間 荷積：0時間 荷降：0時間

▶ 秋田県央～東京方面

時	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	労働時間
事前 H29.8 1日目											運	手 待ち	J A 荷積	運		休憩		運		休憩		運	荷降	運	拘束：17.3時間 運転：11.5時間 荷積：0.8時間 荷降：1.8時間
事前 H29.8 2日目	運	手 待ち	荷降	運							運	運	荷積		運		休憩		運			運	荷降	運	拘束：12.2時間 運転：9.0時間 荷積：1.5時間 荷降：0.2時間

▶ 秋田県南～東京方面

時	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	労働時間						
事前 H29.7								運	J A 荷積	J A 荷積	J A 荷積	J A 荷積	J A 荷積	J A 荷積	J A 荷積	運			休	運				手 待 ち	荷 降	荷 降	運	拘束：16.7時間 運：9.0時間 荷積：4.5時間 荷降：1.5時間			
								荷積	運			荷積	運	手 待 ち	休	荷積	手 待 ち	休	荷積	手 待 ち	荷積	運			休	運	荷 降	運	荷 降	運	荷 降
								荷積	運			荷積	運	手 待 ち	休	荷積	手 待 ち	荷積	運			休	運	荷 降	運	荷 降	運	荷 降	運	荷 降	
								荷積	運			荷積	運	手 待 ち	休	荷積	手 待 ち	荷積	運			休	運	荷 降	運	荷 降	運	荷 降	運	荷 降	
事前 H29.7	運	荷 降	運																												
	運	荷 降	運																												

※ある1運行の運行例であり、平均しているものではない。

2.パイロット事業

(1) 秋田県北～築地市場（青果品輸送）

期間：H29.9.15～ 1ヶ月程度

- ▶ 対象運行（石田運輸商会（石）～東京シティ青果）

<現状の課題>

- ①運行依頼の遅れ
- ②集荷場所における生産者持ち込み締め時間の遅れによる手待ち時間の発生
- ③各集荷場所の積荷形態の違いによる荷積み時間の長さ
- ④遠い南西から北方面（事業所近辺）に集荷している

《実証実験》

- ①対象運行の前日14時までに確定し運送事業者へ連絡 JA 物
- ②生産者持ち込み締め時間の徹底 JA
- ③各JAの荷造り方法の教育、作業員の配置 JA
- ④-1 JA秋田やまもとの集荷を分担 物
- ④-2 出勤時間の後倒し 石

パイロット事業
主なターゲット
★荷積みの効率化

<効果>

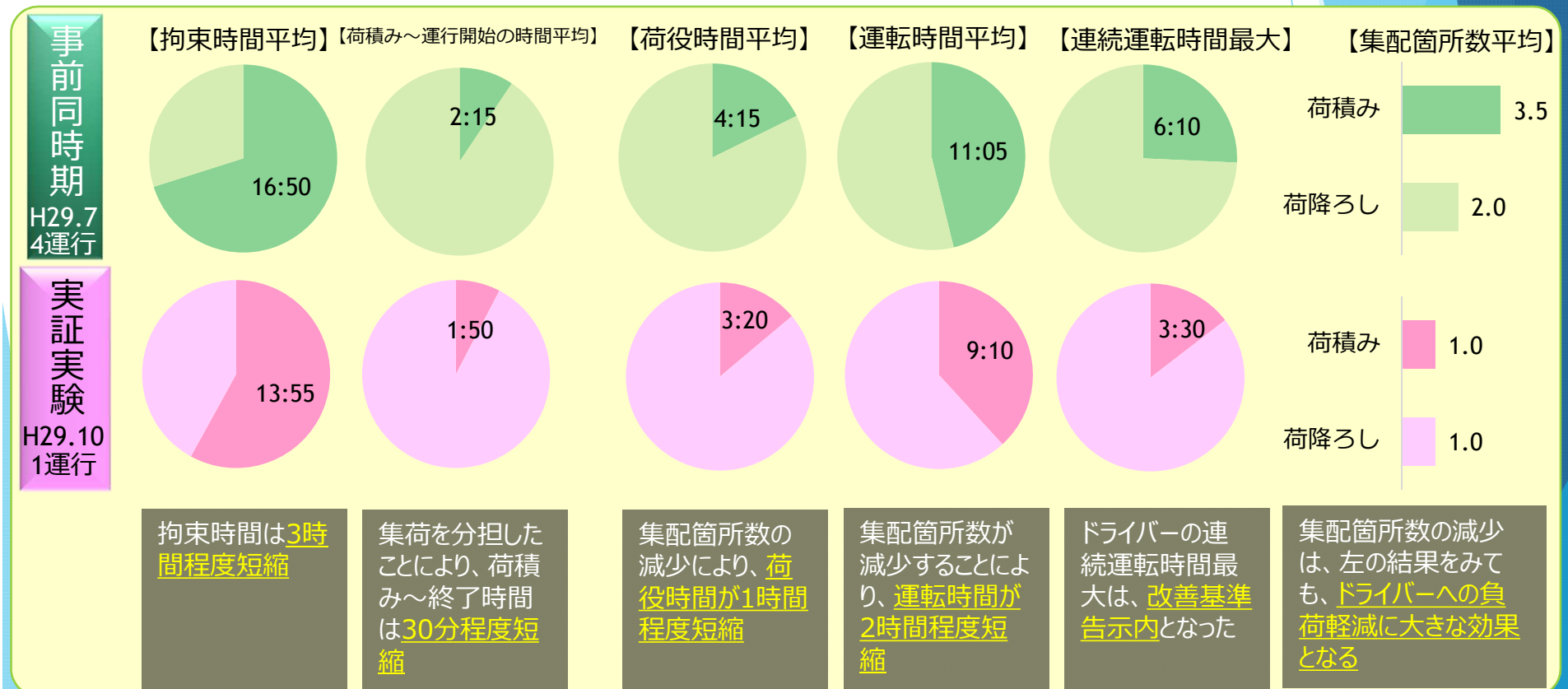
- ・計画的な運行計画が立てられる
- ・荷役時間の短縮により、ドライバーの労働時間の削減・精神的負担の軽減
- ・JA内の組合員への教育による作業効率の向上
- ・荷受け・検品のスムーズ化

□ 実施結果、課題

実証実験内容	実施結果	課題、今後の対応
①対象運行の前日14時までに確定し運送事業者へ連絡	6,7割守られた。	なるべく早く確定して依頼する。
②生産者持ち込み締切時間の徹底 (リーフレット配布)	あまり守られていないが、遅れた野菜については翌日や地場に回した。 リーフレットの配布については時期尚早ということで見送った。	各JA（出荷所）へドライバーの労働時間（出荷時間に時間を要している）の情報共有を行い、生産者へ持ち込みの締切時間を守ってもらえるような取り組みを行っていく。
③荷造り方法の教育、作業員の配置	各JA（出荷所）へ、今回の事業の意図が伝わっておらず、通常通りドライバーがパレットへの積み付けを行った。	好事例のJAの取り組みを参考にし、各JA（出荷所）の効率化を図っていく。
④JA秋田やまもとの集荷を分担、ドライバーの出勤時間の後倒し	横持ち運搬を運送事業者の別ドライバーで（元請運送事業者より依頼）1日実施した。対象運行のドライバーは出勤時間の後倒しを行った。	集出荷所の集約を行ってきているところなので、少しずつ改善につながる予定。 ドライバーの出勤時間については適宜運送事業者で考慮する。

□ 労働時間の比較

- ▶ 荷積み時間の効率化を主なターゲットとし、1運行で実証実験を行いました。（複数箇所の集荷を別ドライバーが対応、対象ドライバーの出勤時間の後倒し）

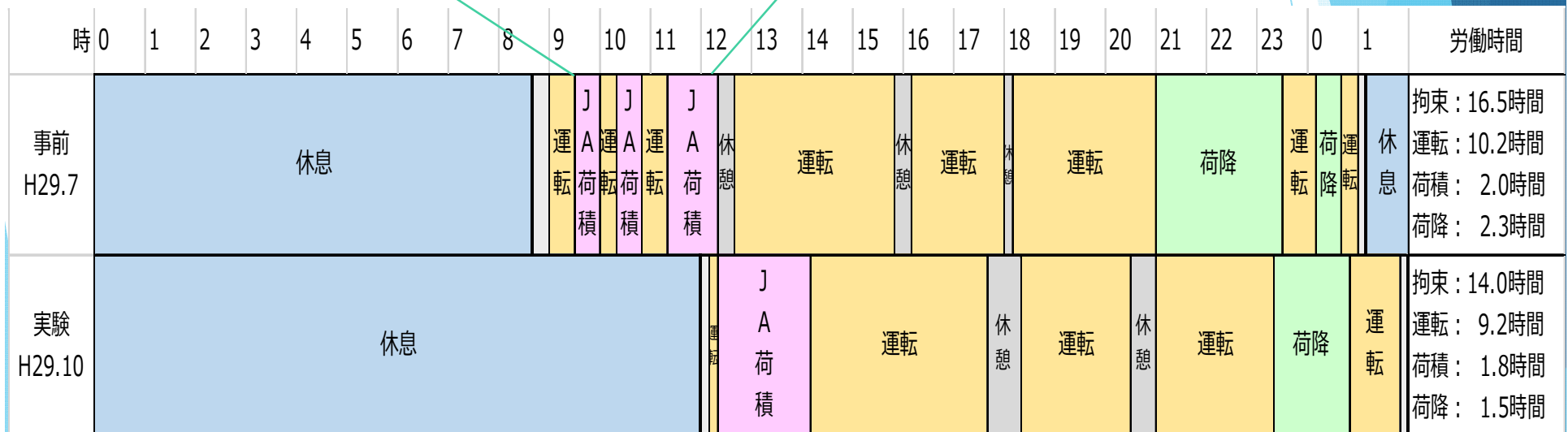


※円グラフは24時間を示している

※実証実験の運行は集配箇所数を減らすため、工夫した運行となっている

▶ イメージ比較（1日目運行例）

事業所から遠い場所へ荷積みに行っているため運転時間も長く荷積み時間が長い



ドライバーの出勤時刻後
倒し、荷積み箇所を分担
し効率化を図った

(2) 秋田県南～横浜市場（青果品輸送）

期間：H29.9.15～1ヶ月程度

▶ 対象運行（羽後運輸（羽）～横浜丸中青果（丸））

<現状の課題>

- ①園芸センター等での荷役時間の長さ（生産者からの荷受け待ち、荷造り準備待ち）
- ②集荷箇所数が多く、北西に集荷後、南下する運行で時間を要している
- ③市場混雑時の手待ち時間の長さ

《実証実験》

- ① 各JAの荷造り方法の教育、作業員の配置。JA 物
- ②-1 JAふるさとの集荷を分担 物
- ②-2 出勤時間の後倒し 羽
- ③-1 到着時間の連絡 羽
- ③-2 到着時間の連絡による荷受け人の配置 丸
- ③-3 混雑曜日を避けた運行 丸 JA 羽

<効果>

- ・荷役・手待ち時間の短縮により、ドライバーの拘束・労働時間の削減・精神的負担の軽減
- ・JA内の組合員への教育による作業効率の向上
- ・荷主とドライバーのコミュニケーションによる荷役しやすい環境の確保

JA：JA全農あきた 物：全農物流

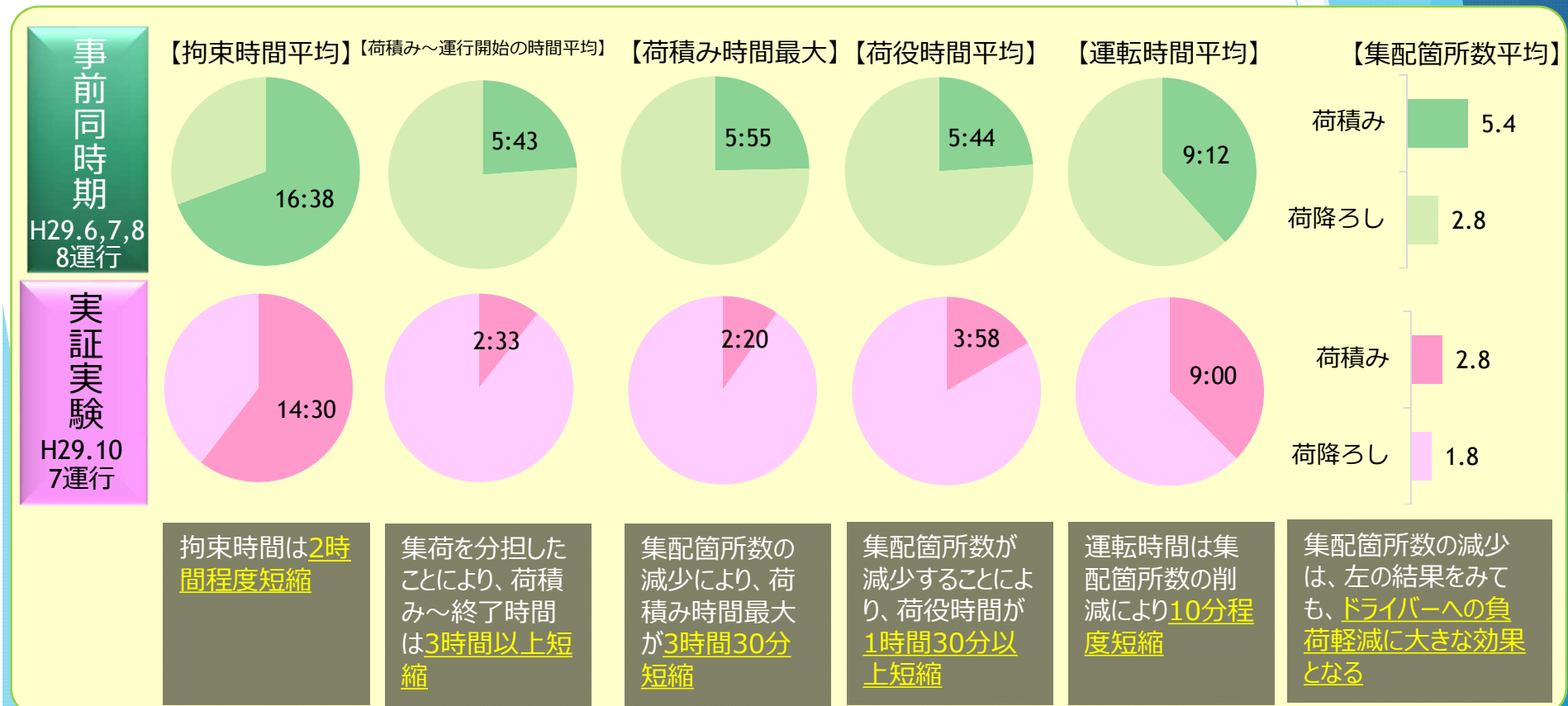
パイロット事業
主なターゲット
★荷積みの効率化

□ 実施結果、課題

実証実験内容	実施結果	課題、今後の対応
①各JAの荷造り方法の教育、作業員の配置	各JA（出荷所）へ、今回の事業の意図が伝わっておらず、通常通りドライバーがパレットへの積み付けを行った。	好事例のJAの取り組みを参考にし、各JA（出荷所）の効率化を図っていく。
②JAふるさとの集荷を分担、ドライバーの出勤時間の後倒し	横持ち運搬を元請運送事業者が別の運送事業者に依頼し2日間で実施した。対象運行のドライバーは出勤時間の後倒しを行った。	集出荷所の集約を行ってきているところなので、少しずつ改善につながる予定。 ドライバーの出勤時間については適宜運送事業者で考慮する。
③到着時間の連絡、着側での荷受人配置、混雑曜日を避けた運行	特に運行に問題のある日はなかったもので、連絡は行わずとも荷受け人の配置がスムーズに行えた。 混雑曜日を避けた運行は検討したができなかった。	運行に問題が生じた時は適宜連絡を行う。 横浜丸中青果ではH30.4より受付専門チームを発足予定。

□ 労働時間の比較

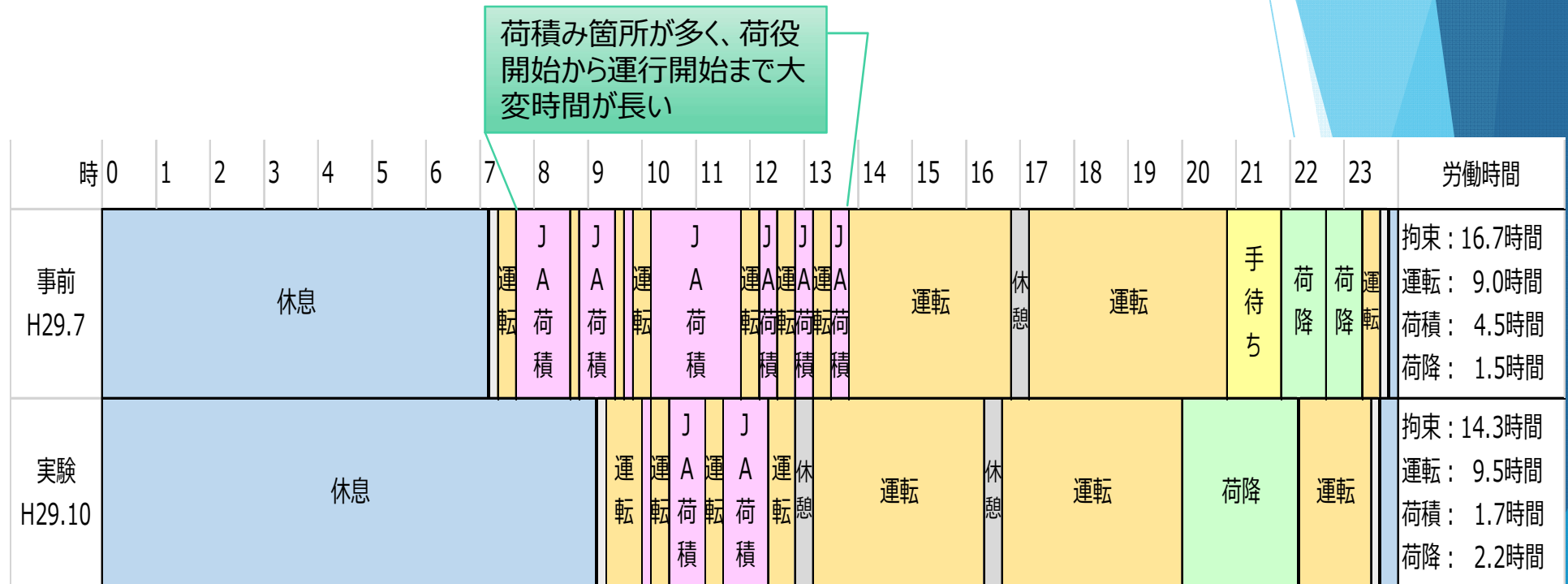
- ▶ 荷積み時間の効率化を主なターゲットとし、7運行で実証実験を行いました。（複数箇所の集荷を別の運送事業者が対応、対象ドライバーの出勤時間の後倒し）



※円グラフは24時間を示している

※実証実験の7運行のうち、対象の横浜丸中青果への配送は2運行

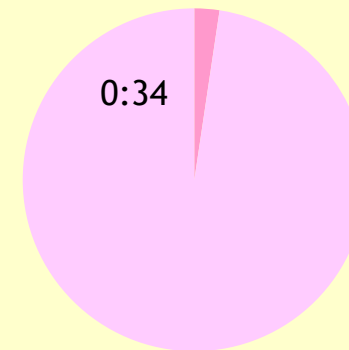
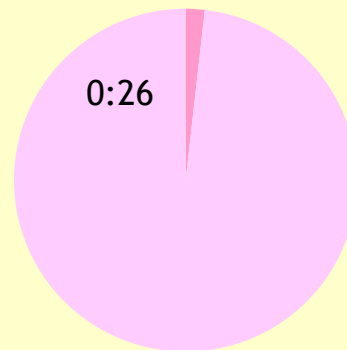
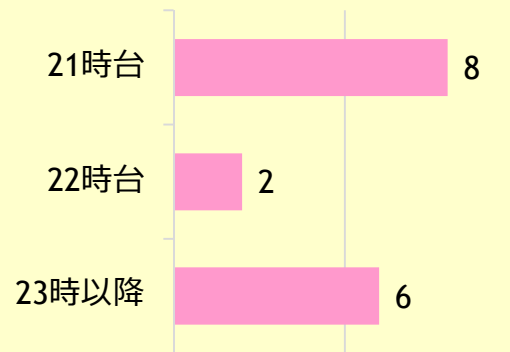
▶ イメージ比較（1日目運行例）



▶ 着側調査結果（対象運行）

- ▶ 市場混雑前に入場することで効率的な荷降ろしができていることが確認できました。

市場着時間帯（16運行平均） 手待ち時間（16運行平均） 荷降ろし時間（19運行平均）



(3) 秋田県央～厚木所在の市場・大田市場（花き輸送）

期間：H29.9.6～20頃（彼岸前）

- ▶ 対象運行（秋田市場運送（秋）～南関東花き（南）～大田花き（大））

<現状の課題>

- ①荷受け先での荷受け体制が整っていない場合があり、荷役に時間を要する
- ②シートパレット崩し手積み・手降ろしのため荷役に時間を要する

《実証実験》

- ①-1 到着時間の連絡（秋）
- ①-2 到着時間の連絡による荷受け人の配置（南）
- ②パレット積み・降ろし（フォークリフト作業）（JA 秋 大 南）

<効果>

- ・拘束時間、荷役時間の削減によるドライバーの労働時間の削減、肉体的・精神的負担の軽減
- ・荷主とドライバーのコミュニケーションによる荷役しやすい環境の確保

（JA）：JA全農あきた （物）：全農物流

パイロット事業
ターゲット

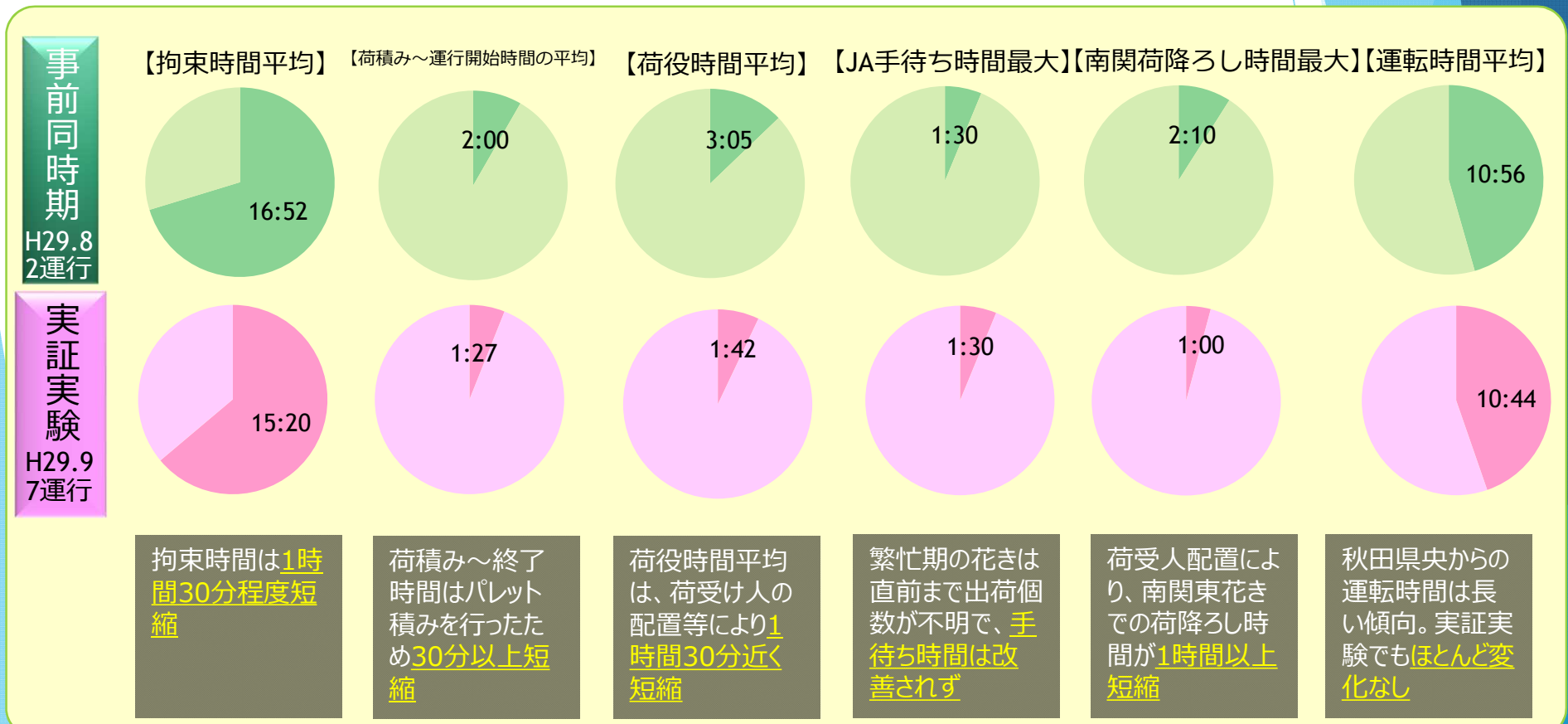
☆荷降ろしの効率化

□ 実施結果、課題

実証実験内容	実施結果	課題、今後の対応
①-1 到着時間の連絡	ドライバーがおおよそその到着時刻が分かった時点（通常は新潟着時）と到着10分前の2回、南関東花きへ連絡を入れた。	来年度の繁忙期についてもドライバーから到着時刻の連絡を受け、荷受け人を配置する。 H30.4から24時間体制で荷受けの対応を行う。
①-2 到着時間の連絡による荷受け人の配置	2回の連絡を受けることで、スムーズに荷受け人の配置が行え、荷降ろし作業の分担を行った。	
②パレット積み・降ろし（フォークリフト作業）	秋田市場運送～大田花き間でパレット輸送を行い効率化を図った。パレットは大田花きのパレットを運用し、配送の多い5運行で行った。荷降ろしの際、大田花きがフォークリフト作業を行った。 秋田市場運送～南関東花き間では検討したが行えなかった。	秋田市場運送～大田花きパレット輸送において以下の問題が発生し、次工程に影響が発生した。 ・パレットと箱のサイズが合わず、積み付けの際のオーバーハングしていたため、パレットのすぐ上の箱が破損。 →パレットサイズの変更含め、オーバーハングしない積み付け方法を検討する →箱の規格統一（モジュール化）の検討を行う ・ラップ巻きによる結露が発生。 →穴あきラップを用いて対応する 秋田市場運送～南関東花きのパレット輸送の今後について、南関東花きでは発側の意向であれば受け入れ体制を整えることを検討。

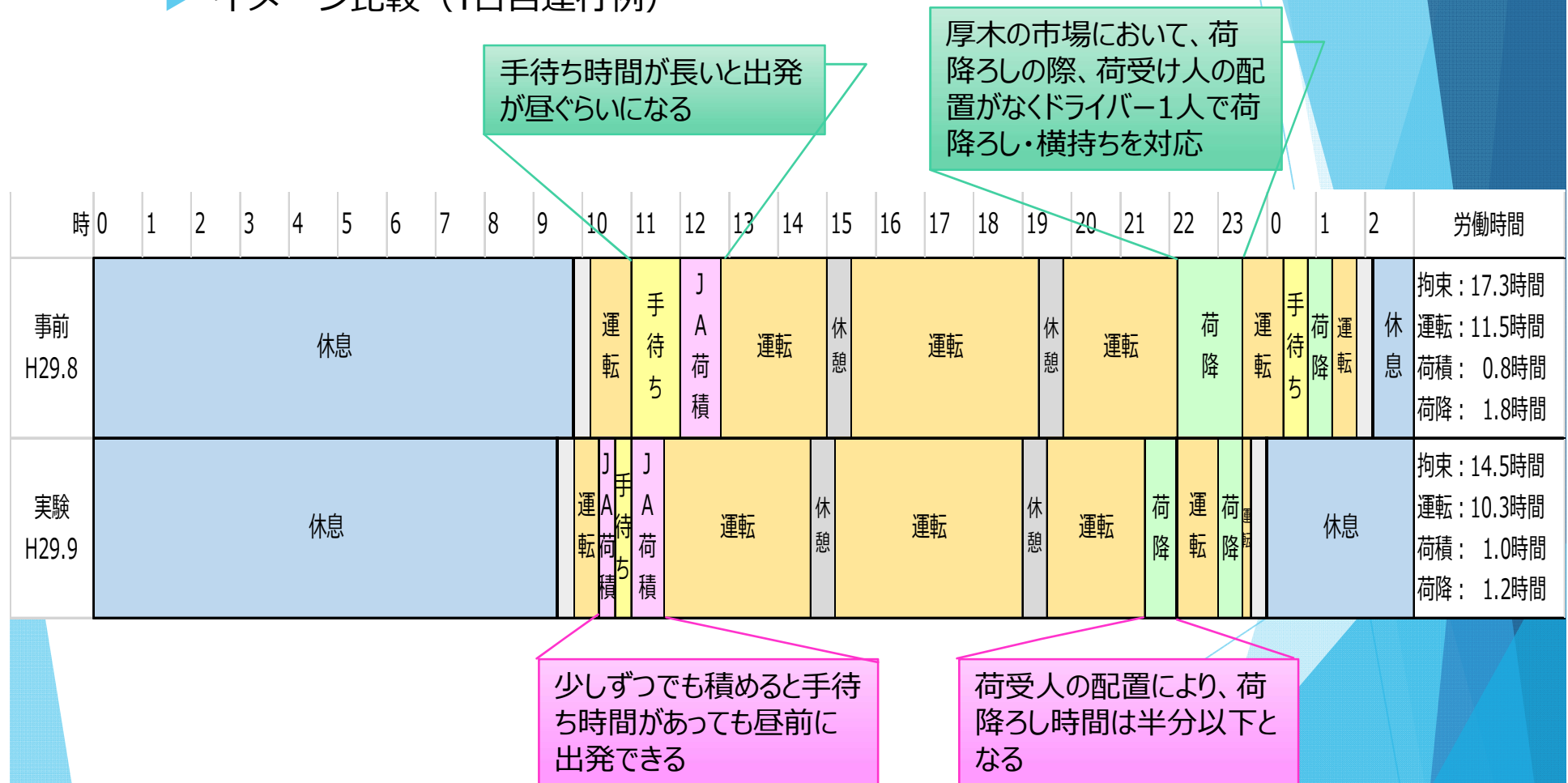
□ 労働時間の比較

- ▶ 荷降ろし時間の効率化を主なターゲットとし、7運行で実証実験を行いました。（南関東花き：荷受け人配置（7運行・平均422ケース）、大田花き：パレット輸送5運行・平均182ケース））



※円グラフは24時間を示している

▶ イメージ比較（1日目運行例）



3. ヒアリング結果

(1) 実証実験全体についての感想

▶ 発荷主

- ▶ 今回の取り組みに対し、対応できた部分とできなかった部分がある。いずれにせよ良い結果がある程度見えてきた。一番良かったと思うのは受け側も一堂に会して話ができて、課題を共有できたことである。今後さらなる改善に向けた一歩が踏み出せたと思っている。

▶ 運送事業者

- ▶ 着側と交流を持てたことや、対応してくれたことが良かった。
- ▶ ドライバーに対し、労働時間を意識させる意味ではやった甲斐があった。

▶ 着荷主

- ▶ 発側、運送事業者、着側それぞれが会社単位で考え、トータルでの改善を図る必要がある。
- ▶ 出荷時間の厳守（出荷体制の見直し）が必要。
- ▶ 実証実験期間中、対象運行の入場時間、荷役時間について確認を行ったが、市場混雑前に到着している運行が多く、荷降ろしが効率的によくできており安心した。結果を確認できたことが良かった。
- ▶ 思ったより結果が具体的に出ていると思った。

(2) 取引環境改善に向けて

▶ 発荷主

- ▶ 今回のパイロット事業で数値化された各運送事業者ドライバーの労働時間については、各JAに共有し、現場に伝え次のステップにつなげていきたい。
(JA内の会議(2/1開催)において、課題の共有を行った。)
- ▶ 輸送力を高めるためには、運送事業者との経営安定につながる取り組みが必要。
- ▶ 労働環境を改善し、運送事業者に振り向いてもらえるような取り組みを進めたい。
- ▶ 出荷所の統合による効率化を検討する。

▶ 運送事業者

- ▶ 発側に運行の流れ（どのように集荷し運行するのか一連）を確認して欲しい。
- ▶ 集出荷所によりやり方が異なる（伝票を切る時間もばらばら）ので標準化して欲しい。
- ▶ JAの出荷所において、伝票をドライバーが受取り積み付けを行っているところもあるので、積み残しがないようにJAに立会いをして欲しい。改善は必須だと思う。
- ▶ 集荷センターの創設（活用）等、集荷箇所数の削減が必要。（複数のトラックが同じ出荷所に集荷しに行っている）
- ▶ 個建て運賃なので箱が多い時はよいが、閑散期は運賃を賄えないので、年間を通して運賃が平準化されることが望ましい。（チャーター便がよい）
- ▶ 出荷量が前もって分かる仕組みづくりが必要。積みきれない荷は翌日に回す等の対応も必要。
- ▶ 全農あきた、全農物流、運送事業者の3者協議が必要。
- ▶ 全国にあるJAの物流センターを活用し、荷降ろし先を削減して欲しい。
- ▶ 活用できていない予冷庫があるので活用し、前日集荷として欲しい。
- ▶ 農協パレット（持ち出し禁止）ではなく運用できるパレットへの積み付けを行って欲しい。（パレットの規格統一）

▶ 着荷主

- ▶ 花きは品目ごとの特性を精査し、温度管理を徹底することで、2日前出荷を推進しており、それが広まりつつある。
- ▶ 秋田県の花きの出荷は伸びているが、生産者が選別しているところもある。今後は各JAのアナログな部分をシステム化（農協が機械で自動選別や仕分けを行う等）する等、他県を参考にした検討が必要。
- ▶ 秋田県内での輸送の合理化（効率化）の検討が必要。（複数のトラックが同ルートへ配送している）
- ▶ 出荷するまでの体制は各JA責任とする等、同じ目的を達するためおおまかなシステムについては秋田県全体の統一化することでルール化にもなるし、それがコスト削減につながり、出荷間違いの改善にもつながるのではないかと。（品目の絞り込み等の戦略があってもよい）
- ▶ 理想は欲しい時間に荷が届くことである。（入荷コントロールできる仕組みも必要）
- ▶ 受け側としても出荷量の前出しが必要。集荷しながら出荷準備をする等、「ながら」を抜け出さないと改善しないと思う。
- ▶ 発側を含めてディスカッションが必要で、時間はかかると思うが最終的にwin-winになるような改善が必要。
- ▶ 荷役の責任の問題もある（ドライバーがどこまでやるのか）。
- ▶ 市場ありきで物流を考えるのではなく、物流センターの活用等もあってもよい。

(3) 園芸輸送の課題

▶ 発荷主

- ▶ 青果：市場の統合が進み市場の数は減っているものの、量販店等のセンター行き（降ろし）が増えている。仲卸業者も考慮して欲しいと思う。
- ▶ 青果：集配箇所数の多さや手荷役等があるため、既存の運送事業者以外には敬遠される。
- ▶ 花き：パレット輸送については、産地側、運ぶ側、受ける側がきちんと分担し負担しないと成り立たないと思う。JAの積み残しの課題が一番大きい。
- ▶ 花き：出荷日当日（直前）にならないとどれぐらいの輸送量が不明。（予冷库の活用を検討）
- ▶ 秋田県では園芸が伸びているにも係わらず、輸送力が落ちている。

▶ 運送事業者

- ▶ 野菜の価格が安いと、運賃等が安い要因となっているのではないかなと思う。
- ▶ 1人のドライバーの対応では労働時間削減が難しいため、積み込み要員を出している等、自助努力を行っている。
- ▶ 青果の配送は特殊でありドライバーにも敬遠され、募集しても集まらない。ドライバー不足のため、これまでと同様の対応は厳しくなっている。
- ▶ ドライバーの労働時間の規制が厳しく、ドライバーは長い時間働くことができないため賃金が下がっており矛盾している。

4.まとめ

- ▶ 本対象集団においては、実証実験案すべて行えませんでしたでしたが、運送事業者の取引環境等の実態を発着荷主と共有したことで、改善に向けた一歩を踏み出しました。

できなかった実証実験内容	要因	改善策
生産者の持ち込み締め時間の徹底、各JAへの荷造り方法の教育・作業員の配置	発荷主企業において各JAへ今回の事業の意図が伝わっておらず（各JAへ事前の調整ができなかった）、荷造り方法の教育や作業員の配置等の実証実験が行えなかった	各JAへの教育や生産者への周知により、発側での荷積み時間の効率化を図る
元請事業者が集荷を分担する	ドライバー不足や荷物が多い時期であるとトラックに積みきれず対応できなかった	実証実験と同様に繁忙期は庸車を手配する等し、荷積み時間の効率化を図る

【今後の取引環境改善に向けて】

発荷主、運送事業者、着荷主が相互に意見を交換する



トータル的な環境づくりに寄与する



市場が望んでいる秋田県産の園芸品が輸送力の確保により安定供給される

5. 今後のスケジュール

2/9 平成29年度 第2回検討会議



2/21 第8回秋田県協議会開催



3月 とりまとめ